ISSN 1348-9801

Forest Winds（フォレスト・ウインズ）

もりからのかぜ・東北

No.47 October 2011

シカは天然資源

シカはやっかいもの？

全国各地でシカ（ニホンジカ）が増え続けています。北東北では北上山地や牡鹿半島での増加が目立ちます。シカは多くの種類の草や木を大量に食べるため、増えすぎると森林植生に強すぎる影響を与えたり、植林木や農作物に被害を出したりします（写真１）。岩手県での農林業被害額は増加傾向が続いており、2008年度と2009年度は２億円に迫る勢いです。北上山地には牧草地が多いため、今後は牧草への被害が拡大することも懸念されます。このようなシカはやっかいものでしかないのでしょうか。

写真１
カラマツ皮剥ぎ

シカの資源価値を思い出そう

シカ肉は、脂肪が少ない一方、蛋白質やミネラルを豊富に含み、味わい深い料理が作れることから、ヨーロッパでは古くから高級食材として取り扱われています。昔の日本でも、シカなどの野生動物は重要な食料でした。仏教の影響で肉食しなかったのではと想像されがちな江戸時代にも、実際はさまざまな機会に食べられていたのです。肉ばかりでなく、皮もまた武具の材料などとして当時の社会に不可欠な素材であったため、シカは熱心に捕獲されていました。

このような資源価値を今でもシカは持っています。食に対する嗜好が多様化するとともに、健康への関心がかつてないほど高まっている今、天然資源としてのシカ肉を改めて食卓の選択肢に加えることは時代の要求にあっているのです。

写真２
シカの群れ

シカの資源利用は一石二鳥

増えすぎるシカ（写真２）の対策は、
⑴個体群管理：生息頭数を把握しながら適宜捕獲する
⑵被害防除：柵などで農業や林業への被害を防止する
⑶資源利用：捕獲したシカの肉の食用などを進める
という三本柱で臨むことが効果的です。

シカを天然資源として扱うことは、食卓を豊かにするとともに、山間地域の経済活性の一助になることが期待できます。また、シカが経済価値を持つようになれば捕獲の動機付けになるため個体群管理が進み、ひいては被害を減少させることも可能になるでしょう。このような考えから、近年は各地でシカ肉利用が盛んになり、岩手県内でもその試みが始まっています（写真３）。

現在、野生動物の食肉の生産や流通販売には様々な難関や規制がありますが、それらの課題を乗り越えた利用推進が望まれます。

写真３
シカ肉製品

独立行政法人　森林総合研究所　東北支所
Tohoku Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute

現代人はシカ肉を受け入れるか？

とはいえ、野生動物を食べていた何代か前の祖先の記憶が、現代人にはほとんど伝えられていません。シカは美味しい天然資源だと言ってみたところで、果たして受け入れてもらえるのでしょうか。東北支所では、シカが天然資源であることをアピールし、また、それに対する反応を確かめるため、2010年10月の一般公開でシカ料理試食会を開きました。

写真4

写真5

写真6

シカ肉は和洋中さまざまな料理が可能です。試食会のメニューとしては、シカ肉が初めての人でも食べやすく、また、無理なく大量に調理することができるものとしてイタリア風煮込みを選びました。まず、タマネギやニンジンなどをオリーブ油で炒め、炭火で焼いたシカ肉を加えます。それをハーブやワインなどで味付けし、十分煮込んだら完成です。これに茹で野菜とパンを添えて提供しました（写真４・５・６）。

写真7

写真8

当日、シカ料理のブースには予定の何分も前から長い行列ができました（写真７・８）。機会さえあればシカ肉を食べてみようと思う人が現代にも大勢いることがこれで確かめられました。また、試食した人の年齢層に際立った偏りはありませんでした（図１）。アンケートの結果では、一般公開の展示や企画のうち良かったと思うものとしてシカ料理試食が上位に挙がっており、味が好評だったことも確かめることができました。

残念なことに、これでシカ肉の味を覚えた人が食品店で買ったり、レストランで食べたりしようと思っても、それが手軽にできる条件はまだ整っていません。しかし、今回の結果を見る限り、シカ肉の利用を広く普及させるために努力するとしたらその努力はきっと報われることだろう、という期待をもつことはできそうです。

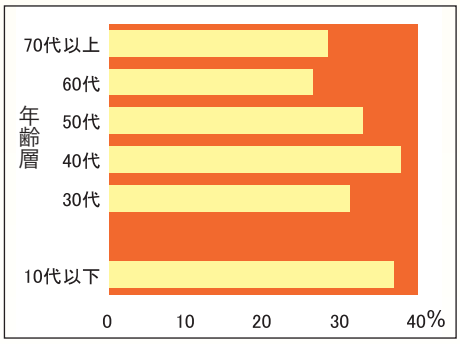

図1　アンケートから推定したシカ料理試食者数の来場者数に対する比率。20代は来場者が少ないので省きました。

一般公開用に岩手県産野生シカ肉を準備するにあたっては、釜石大槌猟友会にご協力いただきました。ここに記し、改めて感謝いたします。

●生物多様性研究グループ　堀野眞一
●森林生態研究グループ　柴田銃江
●森林資源管理研究グループ　林雅秀

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
R100 この印刷物は再生紙を使用しています。
VEGETABLE OIL INK

Forest Winds No.47
平成23年10月14日発行
独立行政法人　森林総合研究所　東北支所
岩手県盛岡市下厨川字鍋屋敷92-25
〒020-0123　Tel.019(641)2150㈹
Fax.019(641)6747
ホームページ　http://www.ffpri-thk.affrc.go.jp